



一般財団法人 日本バプテスト連盟医療団
Japan Baptist Medical Foundation

バプテスト眼科だより



Baptist eye clinic column 5

LASIK (レーシック)

— めがねやコンタクトレンズに不自由を感じていませんか？

「レーシック」という言葉を御存じでしょうか？ 簡単に説明すると、近視・遠視・乱視などの屈折異常（バプテスト眼科だよりvol.4参照）をエキシマレーザーと呼ばれる特殊なレーザーを使って矯正する治療法です。

日本人は近視の有病率が高く、めがねやコンタクトレンズの装用人口が多いとされています。従来、日本ではこのような治療に対しやや消極的な考え方が多かったのですが、徐々にその治療効果が世に知られるにつれ治療件数も増加しています。

このレーザーは2000年に厚生労働省から承認を受け、当院でも現在までに3500件以上の治療を行ってきましたが、非常に多くの方にご満足していただいております。

めがねやコンタクトレンズの使用に不自由を感じておられる方は、是非ご検討していただいてもよい治療法と思われまます。



やまむら きよし
山村 陽

LASIK (レーシック) — めがねやコンタクトレンズに不自由を感じていませんか？

手術の適応

年齢が18歳以上で、屈折異常が一定の範囲内であれば適応になりますが、目に何らかの病気がある方や妊娠・授乳中の方などは手術が受けられません。この適応を正しく判断することがとても重要です。

手術の注意点

40代以上になると、近くのものが見えにくくなる「老視」がどなたにも生じます。したがって手術後に遠くのものが見えるようになって、多少の個人差はありますが、いわゆる「老眼鏡」は必要となります。

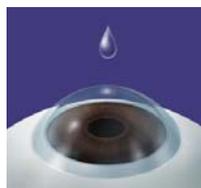
手術の費用

手術費用は保険医療の対象外であり、両眼で295,000円です。

加入しておられる保険の種類によっては治療費が給付される場合もありますので、事前に保険会社に確認していただくことをお勧めします。

手術の実際

1



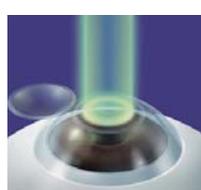
目薬で麻酔をします。

2



フラップと呼ばれる角膜のフタを作ります。

3



フラップをめくって角膜にレーザーを照射し、屈折異常を矯正します。

4



フラップを元に戻して手術は終了です。
(両眼で約20~30分)

LASIK (レーシック) Epi-LASIK (エピレーシック)

眼科専門医による
レーザー角膜屈折矯正手術

受付でLASIKのより詳しい説明パンフレットも用意しています。



LASIK Q & A

Q 安全ですか？失敗はありませんか？

A 手術である以上、100%の安全と結果を保証することはできませんが、合併症を限りなく減らし、安全で安心なLASIKが提供できるよう最新の知識と技術で診療に取り組んでいます。

Q 手術後の通院は必要ですか？

A 近視は網膜剥離や緑内障などの疾患の危険因子とされていますので、定期的な受診をお勧めしています。術後の診察スケジュールは術翌日、1週間後、1か月後、3か月後、6か月後、1年後となっており、術後1年以降は6か月毎の受診をお願いしています。

スマートフォンはパソコンより目が疲れる？

かとう ひろあき
加藤 浩晃

最近ではスマートフォンがかなり普及してきています。私自身もiPhoneを使っていて、外出時に仕事用のメールやインターネットでのちょっとした調べものに大変便利に使っています。でもスマートフォンを使っているときっていつもより目が疲れるような感じはしませんか？

スマートフォンや携帯の画面はパソコンのディスプレイよりも小さいので、当然文字の大きさも小さくなってしまいます。そのため、スマートフォンや携帯ではパソコンや読書よりも近い距離で画面を見てしまっています。

実は私たちの目は近くを見れば見るほど疲れます。それは目の中の毛様体という所の筋肉が、近くを見るときに働いているからです。その距離が近ければ近いほど毛様体の筋肉（毛様体筋）への負荷が強くなってしまいます。そして、毛様体筋が疲れ切ってしまうと目の奥の痛みやかすみ目などの症状が出現するのです。この目の奥の痛みや疲れ目を眼精疲労といいます。また、毛様体筋へ連続して負荷がかかっている状態は、大人になっても進行する近視のリスクとも考えられています。

スマートフォンや携帯で疲れなための対策としては、つつい画面に近づけて見てしまいがちですが、文字サイズを少し大きくして、いつもより離しぎみにして見たり、近く用にあわせた眼鏡をかけて毛様体筋への負荷を少しでも減らすことが大切になってきます。



Relay column

スタッフによるリレーコラム

わたなべ みのり
診察介助 渡邊 秋

“診察介助”という言葉から、どのような仕事を想像されるでしょうか。なかなか馴染みのない職業だと思います。

私達は主に外来の診察室や待合で仕事をしています。診察時に電子カルテに診察内容を打ち込んだり、予約やお薬の処方を入力、手術の申し込み時の準備等もします。また、患者さんにレーザー、処置の準備・補助といった仕事もしています。

初めは眼科の知識などありませんでしたが、講習会に行ったり先生に教えていただいたり、また日々の診察のなかで先生と患者さんの会話からも色々なことを学ばせていただいています。

仕事内容は様々ですが、診察がスムーズに行われるように、患者さんが少しでも気持ちよく診察を受けて帰っていただけるように、と常に心がけて勤務しています。今後も、至らない点やご不満等があれば改善し、皆様により良い診療を提供する助けとなれるよう努力していきたいと思っております。

● 屈折矯正手術 (レーシック) 説明会

バプテスト眼科クリニックでは月に1~2回、屈折矯正手術に関する説明会を実施しています。眼鏡やコンタクトに代わる屈折矯正手術について詳しくご説明いたします。



現在レーシック(LASIK)・エピレーシック・フェイクキックIOL(有水晶体眼内レンズ)などさまざまな屈折矯正手術があります。最近では円錐角膜も手術で治療可能になっています。

自分に本当に適した屈折矯正手術を選ぶために必要な基本的な知識を提供いたします。

近視や、遠視、乱視などで、お悩みの方は、是非お気軽にお越し下さい。



日 時：土曜日 午後3時より(約1時間程度)

※日程はお問い合わせください

場 所：バプテスト眼科クリニック4F ホスピタリティールーム

参加費：無料

● 特殊外来 (専門外来) のご案内

バプテスト眼科クリニックではより専門的な診察・治療に対応するために眼科の各分野にわたって特殊外来を設置しています。

	月	火	水	木	金	土
午前	緑内障 網膜		角膜	角膜 (第4週)	網膜	
午後	眼形成 (2・4週)	屈折矯正 (2・3・4週) 網膜	屈折矯正	角膜・ ドライアイ (月1回) 網膜	屈折矯正	屈折矯正

※特殊外来は休診の場合もありますのであらかじめお電話でご確認ください

お問い合わせ TEL / 075-721-3800

日本バプテスト病院の基本理念は**全人医療**です。

人間は「からだ、こころ、たましい」からなる全人格的な存在です。

当病院は、イエス・キリストの隣人愛に基づき、全職員がよいチームワークを保ち、専門的知識と技術を活かして、全人医療の業に専念します。

バプテスト眼科だより NO.5 2012年12月発行 発行/バプテスト眼科クリニック 編集/バプテスト眼科クリニック広報委員会

この広報誌は日本バプテスト連盟医療団のはたらきを広くお知らせするために作成しております。
著作権、個人情報保護の観点から、流用・転載を固くお断りいたします。

日本バプテスト病院 <http://www.jbh.or.jp/>
バプテスト老人保健施設 <http://www.jbh.or.jp/roken/>
バプテスト眼科クリニック <http://www.eye-clinic.gr.jp/>

バプテスト訪問看護ステーション <http://www.jbh.or.jp/sisetsu/houmonkango.html>
バプテスト在宅ホスピス緩和ケアクリニック <http://www.jbh.or.jp/bhh/>
日本バプテスト看護専門学校 <http://www.jbsn-kyoto.com/>